

「ソドムの町とロト」

2021年01月13日

二人はロトに言った。「まだほかに誰か身内の者、婿や息子や娘がここにいますか。町にいる身内の者は皆、ここから連れ出さない。私たちはこの町を滅ぼそうとしているのです。」(創世記 19 章 12 節から 13 節a)

アブラハムとサラにイサク誕生を予告された後、二人のみ使いは夕方ソドムに着いた。ソドムの門の所に座っていたロトは、二人を見て、立ち上がって出迎え、ひれ伏し、「皆様、どうぞ僕に家に立ち寄り、足を洗ってお泊りください。そして明日の朝早くに起きて、旅を続けてください」と申し出た。アブラハムに倣い、旅人をもてなす信仰が生きていた。彼らは広場で野宿すると言ったが、ロトがしきりに勧めるので、彼の家の人となった。ロトは種なしパンを焼いたりして、丁寧にもてなした。ところが休む前に、ソドムの男たち、若者から老人までが押し寄せ、家の周りを取り囲み、「今夜、お前のところにやって来た男たちはどこにいる。ここに出せ。我々は連中を知りたいのだ」と脅迫した。「知る」という言葉は、聖書では性的交わりを指す。それゆえソドムはゲイの町と言われ、英語のソドミーは「男色」という意味である。同性愛は、聖書では、「女と寝るように男と寝てはならない。それは忌むべきことである(レビ記 18:22)」と、厳しく戒められている。性的少数者 L G B T が医学的、身体的に正しく認識されたのは、ごく最近で、聖書時代は罪とされた。ソドム滅亡は同性愛への裁きではなく、与えられた豊かさを忘れ、自己追及のみに走った邪悪と罪への裁きではないか。脅迫されたロトは、彼らの所に行き、後ろの戸を閉めて、男を知らない二人の娘を差し出すから、私の家の客人となった人たちには何もしないでくれと懇願した。男を知らない二人の娘を差し出すとは、理解し難い申し出で、実際には娘には婿がいたので、事実とは違うようだ。ロトは自分はどうなってもよいと彼らの前に立ち、後ろの戸を閉めて、娘と客人たちを守ろうとした。しかし、ソドムの住民は「引き下がれ」と叫び、お前はよそ者のくせに取り仕切ろうとしていると激しく迫り、戸を破ろうとした。すると、二人の客人(み使い)は彼らの目をくらませ、ロトを家に引き入れ、戸口を見えないようにした。客人はロトに「婿や息子や娘はいますか。身内の者は皆、ここから連れ出さない。町の叫びは主の前に大きくなり、私たちは、ここを滅ぼすために遣わされた」と言った。ロトが客人の裁きの言葉を婿たちに伝えると、彼らは馬鹿げたことのように思い、信じなかった。夜が明ける頃、客人たちは、「さあ、すぐにあなたの妻とここにいる二人の娘を連れて出なさい。さもないと、この町に下される罰によって滅ぼされてしまうでしょう」と逃亡を急かせた。ロトがためらっていると、彼らはロトと妻と二人の娘の手を取って、町の外に置いた。彼らが外に連れ出された時、神は言われた。「生き延びるために逃げなさい。振り返ってはならない。低地のどこにも立ち止まってはならない。山へ逃げなさい。滅ぼされないためです」と、ソドムの滅亡から、ロト一家を救い出されると言われる。ロトは「確かに僕はあなたの恵みを得ています。あなたは私の命を救うために慈しみを豊かに示されました」と感謝するが、山までは逃げきれません。近くにある小さな町に逃れさせてください。私たちは、そこで生き延びることができるでしょうと、近くの町までの逃亡を申し出た。神は「では、このことでもあなたの願いを聞き入れ、あなたの言うその町を滅ぼさないでおこう。急いでそこへ逃れなさい。あなたが着くまで、私は何もしない」と、ロト一家の救いのために最大の手助けと猶予を与えた。